

ZDS3000II

取扱説明書



株式会社 サウンドハウス

〒286-0044 千葉県成田市不動ヶ岡1958

TEL:0476(22)9333 FAX:0476(22)9334

<http://www.soundhouse.co.jp> shop@soundhouse.co.jp

はじめに

この度は ZDS3000II をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。

製品を安全にお使い頂くために、ご使用になる前に本取扱説明書を必ずお読み下さい。

尚、お読みになった後は大切に保管して下さい。

安全上の注意事項

- 梱包を開き、破損した部品や欠品がないか確認して下さい。異常がある場合は販売店にご相談下さい。
- 本体は通気性の良い場所に設置し、周囲にストーブなど高熱を発する物を置かないようご注意下さい。また、本製品を雨天や湿気にさらさないで下さい。

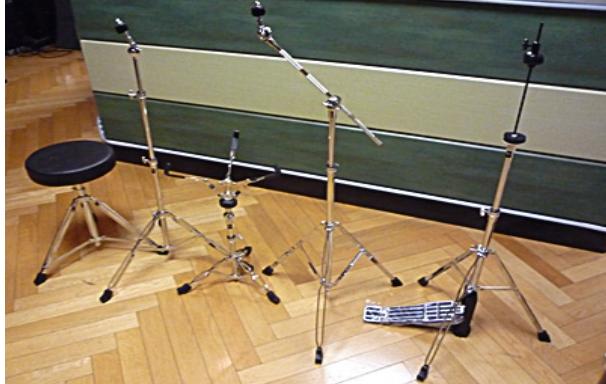
梱包内容



- ・バスドラム: 22"×16"
- ・フロアタム: 16"×16"
- ・タム: 13"×11"
- ・タム: 12"×11"
- ・スネア: 14x"5.5"
- ・バスドラム用フープ × 2 個



- ・タム、フロアタム用テンションボルト(ショート) × 36 本
- ・バスドラム用テンションボルト(ロング) × 16 本
- ・バスドラム用フック 16 × 個



- ・ドラムスローン
- ・ストレートシンバルスタンド
- ・スネアスタンド
- ・ブームシンバルスタンド
- ・ハイハットスタンド



- ・タムホルダー × 2 本
- ・フロアタムレッグ × 3 本
- ・スティック



シンバル

- ・14" ハイハット 1ペア
- ・16" クラッシュ
- ・20" ライド

本体の組み立て方法

バスドラムの組み立て



バスドラムシェルにヘッド、フープの順番で乗せます。このときシェルにマウントされているタムホルダーベース側にフロント用ヘッド(黒)、ロゴシール側に打面用ヘッド(クリア)を取り付けて下さい。



バスドラム用フックにテンションボルト(ロング)を通して、バスドラムフックをフープに引っ掛け、片面 8 箇所ずつ、両面合わせて計 16 箇所あるラグに取り付けます。

このとき均等なテンションで少しづつ締めていくことがコツです。

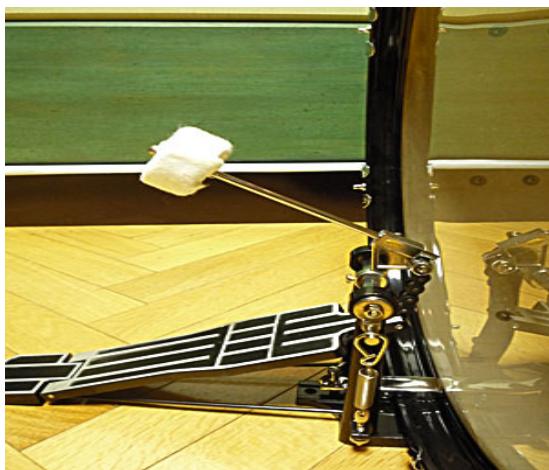


スパーを引き伸ばして固定します。反対側も同じ角度、長さになるように調節してください。



スパーを両サイド均等に伸ばしたら、バスドラムの完成です。

※フロントのフープを床から 2~3cm 浮かせた状態でスパーをセッティングするとバスドラムの音抜けが良くなります。



ペダルにビーターを取り付け、打面側(クリア)のフープにペダルを噛ませます。

スネアスタンドにスネアを乗せる



スネアスタンドの上部と脚部を連結し、上部にある3本のレッグを開きます。



スネアをスタンドにのせ画像中央にある黒いプラスティックのナットを右に回すことで3本のレッグが均等に締まります。

※このときレッグをしっかりと締めることでスネアが安定するだけでなく、タイトなサウンドを得ることができます。

タム、フロアタムを組み立てる



フロアタムシェルにヘッド、フープの順番で乗せます。



フープに開けられた穴に、テンションボルト(ショート)を通して、片面 6箇所、両面 12箇所あるラグに取り付けます。このとき均等なテンションで少しづつ締めていくことがコツです。

タムも同様にヘッド、フープを取り付けます。



フロアタムシェル 3箇所に取り付けされたフロアタムレッグブラケットにフロアタムレッグ(足)を取り付け固定します。

バスドラムにタムを取り付ける



バスドラムシェルにマウントされたタムホルダーベースにタムホルダーを取り付けします。このときタムホルダーの角度を調節するネジが外側に来るようマウントして下さい。



タムホルダーにタムを差込みムホルダーブラケットの
ウイングボルトで固定します。

ハイハットスタンドを組み立てる



ハイハットスタンドの三脚を開きます。



ハイハットロッドを取り付けます。ネジが切れている側
のロッドを三脚側にねじ込む形で取り付けます。



パイプを插入しボトム(下)をフェルトの上に乗せます。



ハイハットクラッチを一度ばらしてハイハットトップを取り付けます。



ハイハットクラッチにあるフェルトとフェルトの間にハイハット(トップ)を挟みナットで固定します。



こちらはハイハット(トップ)を裏側から見た画像です。



ハイハットトップを取り付ければハイハットスタンドの出来上がりです。

このときボトムとトップを 2~3cm ほど間隔を開けて固定することで演奏が可能になります。

シンバルスタンドにシンバルを取り付ける



シンバルスタンドのウイングナットを一旦はずし、フェルトとフェルトの間にシンバルを挟みます。



こちらはシンバルスタンドにシンバルを取り付けた画像です。

※シンバルを固定する際にウイングナットの締めすぎに注意してください。シンバルを叩いた後、シンバルが少し揺れる程度で固定してください。ほんの少しルーズに固定することでシンバルの割れを防ぎ、自然なサステイーン(音の余韻)を得ることができます。

ドラムセットの完成



こちらはドラムセットを正面から見た画像



こちらはドラムセットをプレイヤー側から見た画像

ドラムセット チューニング・ガイド

パート1 ~スネア、タム、フロアタムのチューニング~

- まずシングル・ヘッド、つまり打面側のヘッドのみを張り、一番大きく、よく音が響くポイントまでヘッドを締め上げます。この時、テンションボルトは1~1.5回転ずつ回し、均等に締め上げる事を心がけてください（※フロア → 13"タム → 12"タム→ スネアの様に、低い方から順番に叩き、ちょうど競馬のファンファーレのような音程差がつくようにはじめるとバランスのとれたドラムサウンドになります）。



- ボトム側のヘッド（裏のヘッド）を張ります。裏のチューニングをしっかりしないと、打面側のチューニングの音程が逆転することがあります。一般的に表と裏のヘッドの音程差によって次のような効果が得られます。

- (ア) 表と裏のヘッド音程差が近い→「トーン」という素直なサスティンが得られる（オーソドックスなジャズのようなサウンド）
- (イ) 表の音程が裏より低い→フロアタムや低音を鳴らすタムだと、「トゥン」とサスティンが短くアタックが強調される（ロックのようなサウンド）
- (ウ) 表の音程が裏より高い→ドラムセットの中で高音を鳴らすタム、あるいは胴の浅いタムだと、「トゥン」と立ち上がりの鋭い短めのサスティンが得られる（ラテンのようなサウンド）

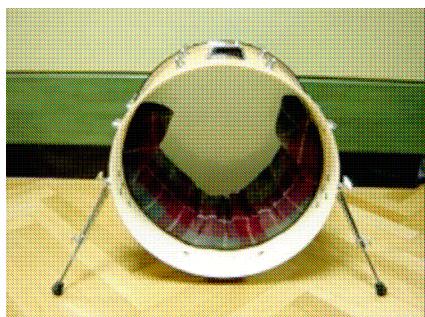
（注意：上記の音程差は半音～全音程度が目安です）

- まずはフロアタム、13"タムは裏のヘッドを表より緩めに張り、12"タム、スネアは裏のヘッドを表と同じか強めのテンションでチューニングしてみましょう。フロアからタム、スネアまで音を回してみて、音程差が明確で、響きが良いドラムサウンドになればチューニング完了です。

（さらにサウンドを整えたい場合は、「ミュート・ガイド」を参照して下さい）

パート2 ~バスドラムのチューニング~

- 一般的なロックドラマーは「ドッ！」とアタックが効いた、重低音がお腹に響くサウンドを目指しているのではないでしょうか？ここではオーソドックなロックサウンドのバスドラムのチューニングを行います。トランディショナルなブルースやジャズ、ブラスバンドなどを演奏される場合はパート1を参考にしてチューニングしてください。
- アタック重視でチューニングを行う、簡単な方法は打面（キックペダルで叩く方）のヘッドをしわが寄る直前まで緩める事です。表のヘッドはやや張り気味にするとアタック音が増します。
- さらにサスティンを止めるために、バスドラムの中にミュート材を入れてください。はじめはいらない毛布などを、「入れすぎかも？」と思うくらい入れてみてください。その後に好みに合わせてミュートを足すか、抜くかしてサスティンを調整してください。



(さらに細かいミュートについては別途「ミュート・ガイド」を参照してください)
バスドラムの中には写真のように毛布や吸音材などを詰め込むと、余分なサスティーンをカットできます。こうすることで、「ドーン」という音が「ドスッ！」とシャープに変化します。

ドラムセット ミュート・ガイド

パート1 ~何のためのミュートか?~

1. ミュートとはタムやバスドラムのサスティン（残響）で余分な倍音を消すために行います。ミュートをする事で、音量、音質が変化して理想のサウンドにコントロールします。またレコーディングやPAのマイキングにも有効です。
2. ミュートは正しくチューニングされたドラムをさらにコントロールするためのものです。まずはしっかりチューニングをした後、調整するように心がけて下さい。
3. 「マイク録りで他のタムの音がうるさい」、「変な共振の音がする」、「バスドラムのサスティンが長すぎ」、「もう少し落ち着いた音にしたい」などの場合は、ミュートでサウンドコントロールにチャレンジしてみましょう。



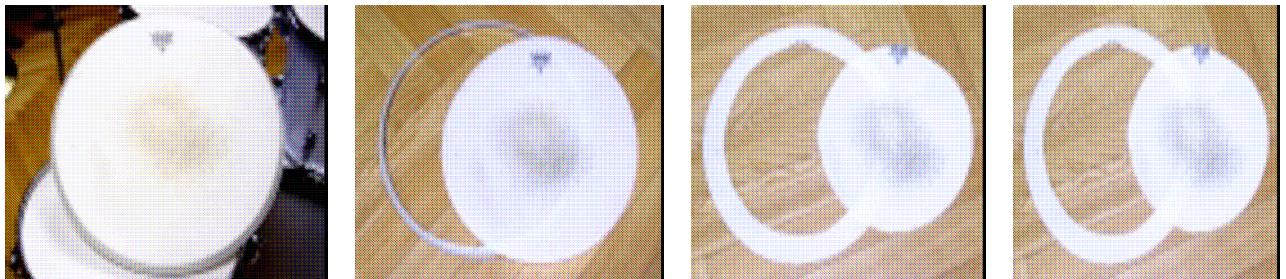
パート2 ~スネアのミュート~

1. ガムテープ・ミュート・・・10cm程に切って、ヘッドに直接張ります。必要に応じて2~3枚張ってもOK。また、テープを円筒形に丸め、リム寄りに貼り付ける方法もあります。音質の変化が少ない方法です。

2. ペーパー・ミュート・・・ペーパータオルやティッシュペーパーを折りたたんで、ガムテープなどでヘッドに貼り付けます。ミュート効果としては高い効果を期待できますが、音質が変化しやすいので使いすぎに注意が必要です。



3. リング・ミュート・・・いらないヘッドや古くなったヘッドを円周状に切り取って、スネアに置く方法です。円周上に広い範囲でミュートを行うため、余計な倍音は大幅にカットされます。各メーカーからも市販されています。



パート3 ~バスドラムのミュート~

1. 毛布/クッション/枕・・・フロントヘッドや打面にどれだけ触れているかで音質が大きく変化します。しっかりとミュートしたいロック派ドラマーにお勧めです。
 - ① ミュートを打面に接触させると?→「ドッ」とサスティンが大幅にカットされ、アタックが強い音になります。
 - ② ミュートをフロントヘッドに接触させると?→「ドゥン!」とシャープなアタック音と短めのサスティンが残ります。
2. 新聞紙の細切れ・・・大量に作るのが大変ですが新聞紙を短冊状に切り大量に詰めると音質の変化を抑え、サスティンのみをコントロールすることができます。
3. スポンジ、吸音材・・・新聞紙同様、内側に適当な大きさのスポンジを固定することで、自然なサスティンのコントロールが可能です。音響用の吸音材も効果的です。
4. ガムテープ・・・ビーターが当たるポイントに貼り付けるとアタック音がシャープに変化します。ただし、長期間張りっぱなしにすると粘着の層が出てきて、見た目が汚かったり場合によっては演奏に支障がでます。まめに剥がしましょう。インパクトパッドという専用のテープもあります。
5. 毛布+ウェイト・・・ウェイトは硬くて重たいものならなんでも大丈夫です。毛布だけの場合と違いより自然にサスティンや倍音を止めるだけでなく演奏中にミュートがずれることを防ぎます。ただし運搬中は取り出してください。

